東北と大阪を繋ぐ情報紙

IMONIKAI いもにかい

おくばっくん

第82号
平成３１年２月
最終号

２０１１（平成２３）年６月創刊から、約７年半。「避難者情報紙 IMONIKAI」が一定の役割を終え、今月をもって最終号を迎えることになりました。ご愛読いただいたみなさまありがとうございました。感謝の気持ちを込めて、これまで IMONIKAI へ関わっていただいた方からのメッセージを紹介します☆

創刊者が当時を語る

「避難されてきた人に向けて、情報発信をしたいねん！」

2011 年 6 月、大阪市ボランティア情報センター（当時）では、東日本大震災により大阪へ県外避難をされた人向けに、情報紙を発行することになりました。タイトルは悩みに悩んだ末・・・「いもにかい」。みんなで鍋を囲む、東北地方の名物行事から、これを手に取る人たちが慣れない街で暮らしていても、少しでも「ホッと」できるようになればと願いを込めて名付けました。

「いもにかい」は、被災された人のために何か力になりたい！という思いを抱く人たちがさまざまに持ち寄ってくれた記事をもとに作成していました。回を重ねること第 82 号、たくさんの人のご協力のおかげで、多くの人を「繋ぐ」役割を果たすことができたのではないかと感じています。

あれから 8 年が過ぎようとしています。そのあいだに「いもにかい」に携わり、また読んでくださったみなさんが、思いを込めてコトコト煮込んでくださったおかげで、具だくさんの鍋になり、いい出汁がでています。これからも一緒に、歩んでいきましょう。「いもにかい」に関わっていただいたすべてのみなさまに感謝を込めて。

修田翔

記念すべき創刊号。IMONIKAI ロゴは創刊者の手書き

修田さんは、東日本大震災の影響で、福島から大阪へ避難。その後、大阪市ボランティア・市民活動センターで情報紙 IMONIKAI など避難者支援事業に携わった
※修田さん（右）と祖母

東日本大震災避難者の会
Thanks ＆ Dream（サンドリ）代表
福島→大阪・母子避難中　森松明希子

創刊号から本当に長い間、情報紙 IMONIKAI に助けられてきました。

乳幼児を二人連れて福島から大阪に避難し、同様の母子避難者は全国に存在するはずなのに、個人情報の厚い壁で、なかなか他の避難者と出会う事ができず、他の避難の人たちはどうやって避難生活を続けているのかしらと孤立しそうになっていたところに、社協の方が情報紙を持って自宅まで来てくださり、避難者の集まる交流会の情報を届けてくださったあの日がなければ、今の私はなかったと思います。

避難者を取り巻く状況は厳しいままですし、子どもたちが独立するまではまだもう少し避難を続けざるを得ない状況ではありますが、情報紙 IMONIKAI のおかげでつながることが出来た方々とのネットワークも構築出来ました。何より避難当事者が立ち直り、つながり、現状を共有出来るようにもなりました。最終号は本当に残念ですが、サンドリは情報紙とともに継続して続けてくださった避難者交流会 cafe IMONIKAI を続けていくことで、これからも、情報紙 IMONIKAI の精神を引き継ぎ、孤立しがちな避難者とともに、つながって、支え合い、避難生活を励ましあって続けて参りたいと思います。

長きに渡り、心から寄り添い、お支えくださった皆さまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Café IMONIKAI のご案内

毎月開催の交流会★みんなでゆっくりお話しましょう。途中参加、途中退室は自由。当日参加も大歓迎です。

3/28（木）、4/23（火）、5/21（火）、6/21（金）
時　間：いずれも 10：00 ～16：00
場　所：大阪市立社会福祉センター
問合せ：sandori2014@gmail.com
※保育が必要な方は２週間前までにご相談ください。

information 情報掲示板

お得なご招待や日々の暮らしに役立つ情報など

方言の交差点
―東北弁と大阪弁が出会う場所―

＜芋煮の味＞

東北の芋煮には二種類の味があります。ひとつは醤油ベースで牛肉、里芋、長ねぎが入っているもの。主に東北の日本海側の芋煮の味です。もうひとつは味噌ベースで豚肉、じゃが芋、人参、玉ねぎが入っているもの。これは主に太平洋側で食べられます。どちらにも甲乙つけがたい美味しさがあります。でも、芋煮の美味しさを決めるのは、そこに集まった人たちとの交流です。河原で大きな鍋を用意して、みんなで材料を準備して、鍋に材料を入れてから煮えるまでおしゃべりして……という一連の流れが楽しければ楽しいほど、芋煮は美味しさを増していきます。

東日本大震災で東北を離れた人にとって、そんな芋煮の味は懐かしいものでしょう。残念ながら大阪ではなかなか芋煮をする機会がありません。でも、何かの折にみんなで集まってワイワイガヤガヤすることはできます。

そんなみなさんの集まりを美味しくする調味料として東北の方言と大阪の方言があったとしたら、今まで「方言の交差点―東北弁と大阪弁の出会う場所―」を担当してきた者として、これ以上うれしいことはありません。

地域としては全く性格の違う東北と大阪ですが、方言の歴史を振り返ってみると思わぬところでつながっていたり、全く違うルーツを持っているにも関わらず今では同じような使い方をしたりということが多々あります。そんな方言の真相を知ると、東北や大阪を見る目が少し変わるような気がしますが、いかがでしょう？

震災はたくさんの悲しみと苦しみを生み、やり場のない怒りを私たちに経験させました。ですが、そんな震災があったからこそ結ばれた御縁があるのも事実です。震災を風化させないということのなかには、そうした御縁を大切にしていくということもあるはずです。この「IMONIKAI」で結ばれた御縁も、そのひとつです。「IMONIKAI」は終わっても、みなさんとの御縁は続いていくと信じています。

今まで本当にありがとう……ではなく、ほんまおおきに！

大阪教育大学准教授　櫛引祐希子

何でも話そう　安心あたたか
「ほっ！」と相談無料

こころの中に溜めこんでいるモヤモヤした気持ちを吐き出してスッキリしませんか？
精神対話士が真心の対話で一歩先の解決に向けてご一緒に考えます。
※精神対話士は専門的知識と暖かな対話で人を癒す心のケアの専門職です。
※守秘義務については万全を期しております。

日時：平成３１年　①３月３日（日）、
②３月９日（土）③３月１７日（日）
※いずれも１３：３０～１６：３０
（受付は１６時までとなります）
場所：堺市立東文化会館　アミナス北野田３階
（①、②は講座室１、③は研修室１）
アクセス：南海高野線「北野田」駅より徒歩１分
申込：要予約「対話カフェ」大阪事務所
TEL:090-2064-4249
（受付時間　10:00～17:00）

主催：内閣府認可 一般社団法人メンタルケア協会
後援：厚生労働省、大阪府、堺市

これからもつながりを大切に

その５月連休、ワゴン車に乗り合わせて、被災地へ向かう最初でした。避難所の高等学校で、たくさんの強さに出合い、生きるバネをいただきました。強風の中、校庭で『たこやき』作りはとても無理でした。自治会の役員さんが、教頭先生に話し合いに行ってくださいました。先生は「今は皆さんにお貸ししているのですから、自由にお使いください」との言葉で、体育館内でのたこやき作りが始まりました。館内は油の臭いで充満しましたが、被災の皆さんは、喜んで食べてくださり、他愛無い大阪弁に笑ってくださいました。

人と人のつながりはいつの場合も大切です。「ＩＭＯＮＩＫＡＩ」は肩書きの通り、東北と大阪をつないできました。「元気をもらった」「安心して読める」「大切な情報が得られる」など避難と支援をつないでこられたことを誇りに思います。媒体は終了しますが、つながりは終わりません。

これからも東日本大震災は終わりません。それぞれの人生を大切に、語らいと励まし合いのつながりは続かなくてはなりません。さらに新たなスタートを！

大阪市ボランティア・市民活動センター
脇坂博史

発行　社会福祉法人　大阪市社会福祉協議会　大阪市ボランティア・市民活動センター
〒543-0021　大阪市天王寺区東高津町 12-10　TEL：06-6765-4041　/　FAX：06-6765-5618